認知症高齢者グループホーム森の里

ユニット名：あんず・さくら

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修や研修会、新年度1回目の職員会議で理念や目標を確認している。ユニット会議では施設全体として、ユニットの特徴を活かして、個別ケアでは、どのように対応していくか話し合いながら取り組んでいる。	年度初めの職員会議で理念について確認し合い共有と実践に繋げている。合わせて職員間で話し合って決めた施設目標、ユニット毎の目標を年度初めの職員会議で発表し、休息室に掲示して実践に繋げている。施設目標は分かりやすい目標を設定しており、お互いが注意し合って、利用者第一の支援に繋げている。家族にはパンフレットを用いて法人理念について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや、地区の行事へ参加したり、介護談話会を企画、開催し利用者様と一緒に参加し地域の方との交流を行っている。	開設以来法人として区費を納めて地域の一員として活動している。また、市の広報誌を頂くと共に地域の3代の区長が運営推進会議の構成メンバーとなっており、地域の情報を細かく提供して頂いている。11月に行われた森地区の文化祭に利用者、職員が参加して「二人羽織り」や「ギター演奏に合わせた歌」を披露した。また、隣接する特別養護老人ホームと合同で「介護談話会」を2ヶ月に1回開催している。介護相談を受けて地域の皆さんと交流を図っている。地区の秋祭りには獅子舞が来訪して、利用者を楽しませて頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアグループ来所の際お話をしていただいたり、交流する機会を作っている。また、今年度10月、介護談話会を企画、開催し地域の皆さんと交流する機会を増やしていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で気軽に発言していただけるように、地域の皆様との関係も大事にしている。会議でのご意見等、今後の活動や取り組みに活かせるように振り返りをしている。	運営推進会議は、コロナ蔓延中は書面開催だったが、新型コロナ5類への移行後は、東区や西区の方、区長、前区長、前々区長、民生委員、利用者代表、家族代表、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が出席して奇数月に開催している。ホームの現況や活動及び事故ヒヤリハットの報告、質疑応答等を行ってサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催のオレンジカフェに参加し意見交換等行っている。 運営推進会議を通じて現状を知っていただき連携を図っている。	市高齢者介護課には事故報告等、必要事項を速やかに報告している。地域包括支援センターが2ヶ月に1回開催している「オレンジカフェ」にも参加して意見交換を行っている。毎月、市の介護相談員2名が来訪して1時間30分位利用者との交流した後に状況の報告を受けている。介護認定更新調査は市の調査員が来訪し、職員が対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会からの研修を行うなど、職員全員への理解、周知を徹底している。 スピーチロックを含め言葉の拘束への配慮にも努めている。 利用者様の安全確保の為、玄関は施錠している。	法人の方針として身体拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保の為施錠されている。帰宅願望のある方が数名いるが、職員がホームの外を散歩して納得して頂いている。五分の二強の方が転倒防止のため、家族に相談の上で人感センサーを使用している。使用状況はユニット会議の中で確認して、廃止に向けた検討も進めている。年2回の身体拘束、虐待防止の研修会に合わせ職員会議で勉強会を行い、拘束に対する意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会からの研修を行うなど、職員全員への理解、周知を徹底している。 礼節委員会のアンケートや研修にて言葉の虐待について考える機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修や資料配布にて、制度の理解を深めている。 日常生活での自立支援については利用者様のできるかできないか？にしていかない支援を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前説明時、疑問点、不安等お聞きし説明している。 その他にも、随時声をかけていただけるよう声掛けを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に匿名でご記入頂ける、意見箱の設置をしている。 ご意見等あれば、速やかに対応している。 また、ご家族には面会時、普段のご様子をお話し要望をいただいている。	家族の面会は、現在、事前に連絡を頂いた上で、玄関ホールで10分位を目安に行っている。ホームでの生活の様子は毎月発行している「森の里だより」に担当職員からの近況報告を添え家族にお届けしている。また、誕生日や母の日、父の日には「お花」や「洋服」等のプレゼントが送られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議にて、提案を聞き入れ取り入れるなどをし改善している。 また個々にも意見、提案を話しやすい関係性作りに取り組んでいる。	月1回職員会議とユニット会議を行い意思統一を図り、日々の支援に取り組んでいる。各委員会からの報告、各種勉強会、活動計画の確認、利用者個々のカンファレンス等を行っている。法人として人事考課制度がある。年1回、自己管理シートを用いて自己評価を行い、施設長による個人面談が行われており、意見・要望等を話す機会が設けられている。更に年度末にも施設長による個人面談が行われている。また、管理者が気づいた都度面談をしている。また、年1回職員対象にストレスチェックが行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が年に1回、職員の意見、要望や仕事への取組みを聞き、人事考課へ反映している。 個々に変化ある場合は都度面談行い希望・要望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、資料の配布を行い、一人一人のケア力向上に努めている。 月2回歯科衛生士が来所し指導を受けている。 口腔ケアについての研修を外部、歯科衛生士にて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、オレンジカフェ参加にてネットワーク作りをしている。 介護談話会を開催し、当事業所に来所していただく機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時にご利用者様の生活歴の聞き取りや、一日の過ごし方、好まれている習慣等をお聞きしている。 入所後の希望、要望等お聞きし安心してお過ごしいただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅でのご様子、ご家族の希望・要望、困っている事等お聞きし、できる限り対応している。 家族の思いも大切にし支援に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況をご本人、ご家族、ケアマネージャーさんから聞き取り、ご本人の状況を確認し必要なサービスを選択できるよう相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中やご本人の生活歴を参考にし、ご本人の出来ること出来ないこと、サポートがあれば出来ること等を支えあいながら生活していくことの出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人もご家族も安心して過ごしていただけるように、普段のご様子や、想い、時には困っている事などお話させていただき、頼り、頼られる関係性を大切に、生活にいかせるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方以外では、コロナ感染症の状況をふまえ、家人の了承をいただいた方のみの面会でお願いしている。 ドライブ等を行い地元を周ったり、散策等行っている。	入所時に家族以外の面会者について確認しており、家族の了承を得た親戚、友人、近所の方の面会がある。また、家族と家の様子を見に出掛ける方や法事等で家に戻られて昼食を食べてこられる方も数名いる。訪問美容師が2ヶ月に1回来訪してカットを行っている。また、家族に手作り年賀状を出し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士合う合わないがあるので席の工夫や、時には職員が間に入りながら、会話やレクリエーション活動を行っている。 孤立してしまう利用者様がいないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の移動や看取り等、ご本人やご家族が不安にならない様相談し話を進めていくよう努めている。 次の事業所へ情報共有、連携を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人お一人の思いや、希望を尊重し、ユニット会議などで担当職員から報告、職員全体で共有し、できる限りサービスの提供に取り組んでいる。 利用者様にとってどうか？を検討している。	意思表示が難しい利用者が数名いるが、家族の意向も確認の上で、ユニット会議で対応を話し合って意向に沿える様な支援に繋げている。他の方は自分の意向を伝えられる状況であり、二者択一の提案も含めて希望に沿える様な支援に取り組んでいる。気付いた事柄はケース記録に纏めて記載し、情報を共有するとともにユニット会議の中で確認し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活をしてきたのか、ご本人ご家族、ケアマネージャーへ情報収集を行い、入居後も馴染みある暮らしが継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、1日の中での表情、発言等、利用者様の状態の把握、変化を観察し今後のサービス提供、意向の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて、担当職員やユニット職員、管理者で利用者様の変化など報告、確認を行い個別カンファレンスを行っている。 ご家族からの要望等、都度職員間で話し合っている。	職員は1～2名の利用者を担当し、居室管理、排泄状況の把握、家族への近況報告の作成、生活全般の管理を担当している。家族の希望は面会時や電話で伺うとともに、更新時の2週間前に担当職員、看護師、管理者でモニタリングを行って、ユニット会議に全職員で意見を出し合いケアプランを作成している。入所時は入所前の状況をお聞きして暫定で1カ月のプランを作成し、様子を見て短期目標3ヶ月のプラン作成に繋げている。状態が安定している場合は長期目標6カ月での見直しを行っている。なお、月1回のユニット会議の中で全員の状況を確認し、変化がある場合は、適宜見直している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態の変化、行動、発言、表情等、個別の介護記録に記録し情報共有、引継ぎ前には記録確認し職員間連携を取り、計画へ反映、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変わっていく状況の中で、ご家族と蜜に連絡を取りニーズの把握に努め、その時に必要なサービス提供を心掛けている。 嗜好品の提供、物品の購入、受診の対応等、行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域の方々から情報をいただいている。地域のボランティアの方々に来所していただき、ご利用者様の楽しみの時間となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もご本人のかかりつけ医へ受診していただけるように支援している。かかりつけ医を持たない方、また受診が難しくなってきたご利用者様には、地域の往診可能な医師を紹介している。 歯科の訪問診療も利用いただいている。	入所時に医療機関について希望をお聞きしている。現在、数名の方が入所前からのかかりつけ医を家族と職員が付き添い受診している。他の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、非常勤看護師が1名在籍しており、日々の健康管理を行うとともに医師と連携を図っている。緊急時は「千曲中央病院」と連携しており、医療体制が整えられている。歯科医は必要に応じて訪問歯科医の往診で対応している。また、歯科衛生士が月2回来訪して口腔指導による口の健康維持に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・かかりつけ医に都度相談し、受診を検討したり、処置を行っている。 急変時の対応方法、研修等も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供・情報共有を行い、退院前の説明などに同席させていただき、情報収集に努めている。 今後の相談もさせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、終末期についてお話させていただいている。状況によって、系列施設への異動や、当施設での看取り、ご本人やご家族の希望をお聞きし、ご家族・介護職・看護師・医師で話し合いながら支援している。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明して同意を頂いている。終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設けている。家族の意向を確認の上で、医師の指示の下、医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に数名の看取りを行い、家族には自由に面会をして頂くとともに最期の時を共に過ごして頂いた。看取り後も振り返りの機会を設けて心の籠った看取り支援に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修にて、施設看護師を講師にAED・急変時の対応等の講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し避難訓練を行っている。職員は役割分担に基づき行動できるようにしている。通報訓練や水消火器を使用した消火訓練も行っている。 9月に防災についての研修会を行っている。	年2回消防署へ届け出の上、防災訓練を行っている。9月には施設内での火災を想定して、利用者全員を玄関より外へ移動しての避難訓練、初期消火訓練、通報訓練を行った。合わせて9月の職員会議に防災関連の研修会を行って防災意識の向上に努めている。来年3月には火災を想定した夜間の避難訓練を予定している。「水」「お米」「缶詰」「レトルト食品」「石油ストーブ」「介護用品」等を備蓄している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の個々や特性を活かし大切にしている。礼節委員の研修会を行い、言葉使いや声のトーンに配慮するなど、親しい間柄になっても一職員であることを忘れずご利用者様と接することを大切にしている。	礼節委員会の研修を通して利用者の人格を尊重した支援に取り組んでいる。声のトーンや行動抑制をする言葉遣いはしない様に心掛けている。また、トイレ介助の際はドアは必ず閉め、周りに分からない様にお誘いしている。また、基本的には苗字を「さん」付でお呼びしている。入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しくなってきているご利用者様が多くなってきている。自己決定・自己選択をしていただく場面を作るようにこころがけている。日常生活の中で思いや、気持ちを引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の一方的な思いや、対応の仕方ではなく、ご利用者様のペースに合わせた支援、食事時間や起床・就寝時間に対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問美容を利用している。ご利用者様によっては髪の毛を伸ばしたい。少しでも伸びてくると切りたい。等、その時に応じて利用していただいている。 外出時、更衣時等、季節に合った衣類を職員と一緒に選択し着替えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒におやつ作りを行っている。おやつのメニューを考えるときも、利用者様にどんなものが食べたいか、お聞きし参考にしている。 行事食や、郷土料理を取り入れている。 職員と盛り付けを行うなどしている。	全介助の方が若干名いるが、殆どの方は自力で食事が出来る。副菜は、隣接する特別養護老人ホームの管理栄養士が季節感も加味して調理し、ご飯と汁物はホームで提供している。利用者が、盛り付け、食器洗い、食器拭き等を手伝っている。また、夏には「流しソーメン」、クリスマスには「ビーフシチュー、ケーキ」、正月には「おせち料理」等の行事食を提供している。また、時折利用者の希望を聞いて「かつ丼」等をテイクアウトして楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックを行い、摂取量の少ない方はご本人の希望に応じ対応できる限り対応している。ムセやすい方にはとろみをつけ提供するなど、安心・安全に食事していただけるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを行っている。 毎月2回、歯科衛生士来所していただき、ご利用者様1人1人に合った口腔ケアを行えるように指導していただき、情報共有を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様1人1人に合わせた下着やリハパン等を検討・選択し、排泄パターンの把握に努め、その方に合ったペースで行えるように支援している。	全利用者が何らかの介助が必要な状況である。排泄チェック表を作成して、パターンを把握するとともに起床時、食事前後、就寝前等の定時の声掛けの他にも様子を見て早めにお誘いしている。排便が3～4日無い場合は看護師に相談してコントロールを行っている。お茶を中心にコーヒー、牛乳、スポーツドリンク等で1日1200cc以上の水分摂取に取り組み排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気をつけ乳製品を提供している。また、体操を行うなど、自然排便を促している。 主治医からその方に合った薬の処方をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、ご本人の体調・気分によっては時間を変えたり、曜日を変更している。 菖蒲湯・ゆず湯・リンゴ湯等、季節を感じての入浴も楽しんで頂いている。	3ヶ所の浴槽とリフトが備え付けられた広い浴室で基本的には週2回の入浴を楽しんでいる。また、看護師には入浴の際皮膚の観察や爪切りをして頂いている。更に、秋には紅葉見物も兼ねて上山田温泉の「足湯」に出掛けた。入浴剤使用に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。また、入浴後には「スポーツドリンク」等で水分摂取をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室では寂しいとお話される利用者様には食堂のソファーで休んで頂く。等、ご利用者様の好きな時、好きな場所で休んで頂いている。夜間は眠くなった時に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を職員全員が確認できるように、各ユニットにファイリングしている。 誤薬・内服漏れがないよう職員ダブルチェック行い、誤薬・内服漏れを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、やりたい事を見つけ日常生活の中に取り入れている。 お酒などの嗜好品も楽しんで頂けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力低下に伴い、ご利用者様個々の状況に合わせた散歩、歩行を楽しんで頂いている。 外で体操をしたり、レクリエーション活動を行うなどしている。 状況に応じ、外出の機会を設けている。	施設内では歩けるが、外出時は自力歩行の方が半数弱、歩行器使用の方が若干名、車いす使用の方が半数強の状況である。天気の良い日にはホームの広い敷地内を散歩したり家庭菜園の水やり等も楽しんでいる。新型コロナ5類への移行を受けて、感染防止対策を取った上で、季節に合わせた外出も再開し、春のお花見から秋の紅葉見物までドライブを兼ねて出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かり管理させていただいている方はいない。必要に応じて事業所にて立て替えを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ながら、ご利用者様の希望がある時は自由に通話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット共有スペースの模様替えをするなど、都度利用者様に合わせた環境作りを行っている。 季節に合った装飾、花を飾るなどしている。また窓から木々の彩り、四季折々の様子・景色を感じていただいている。	広い敷地内には「杏」の樹が数多く植えられており、春になると見事な花々が咲く。広い玄関ロビーに多くのソファーが置かれ、利用者の寛ぎの場となっている。また、広い施設内を歩く事で体力維持にも繋がっている。ホール兼食堂も充分な広さが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな場所で、思い思い過ごしていただけるよう、個々の時間もゆったり過ごしていただけるような空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の写真、ご自宅で使っていた家具等、馴染みあるものをお持ちいただき使用していただいており、落ち着く居心地の良い雰囲気作りを心掛けている。	居室は充分な広さが確保され、洗面台とクローゼットが完備されている。持ち込み物は自由で、家族と相談の上で、使い慣れた家具、イス、テレビ、お位牌等が持ち込まれている。家族の写真や職員から贈られた誕生日のお祝い色紙等に囲まれて思い思いの日々を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	１人１人の状態・状況に応じてベットの高さや、家具の配置を変えて安全に過ごしていただけるように配慮している。トイレや浴室に貼り紙をするなど、わかりやすいようにしている。		